

伊予里 市議会だより

第32号

平成22年
(2010年) 1月



初めての大きな舞台、緊張したけど がんばりました♪

(雛菊会/2009年 市民音楽祭)

12月補正：3億9,963万円

補正後の予算

一般会計：226億5,591万円

(対前年度同期 +20億9,275万円
+10.2%)

■特集

新統合病院 概算事業費

10億円増額の見込み

★平成22年第1回定例会は3月1日(月)開会予定です。

平成21年伊万里市議会第4回定例会
会期日程

12月 開議時刻 午前10時

日	種別	内容
1(火)	本会議	開会 会議録署名議員の指名 会期の決定 市長提出議案20件・・・一括上程 市長提出議案の提案理由説明
3(木)	本会議	議案に対する質疑
4(金)	本会議	議案に対する質疑 議案の常任委員会付託
7(月)	休会	特別委員会(交通・港湾・企業誘致対策)
8(火)	休会	特別委員会(地域医療・環境施設整備対策)
9(水)	本会議	一般市政に対する質問
10(木)	本会議	一般市政に対する質問
11(金)	本会議	一般市政に対する質問
14(月)	休会	常任委員会
15(火)	休会	常任委員会
16(水)	休会	正副委員長会
18(金)	本会議	常任委員会報告 常任委員会報告に対する質疑 特別委員会中間報告 決算審査特別委員会報告 特別委員会中間報告に対する質疑 決算審査特別委員会報告に対する質疑 議案の付議順序により討論、採決 閉会

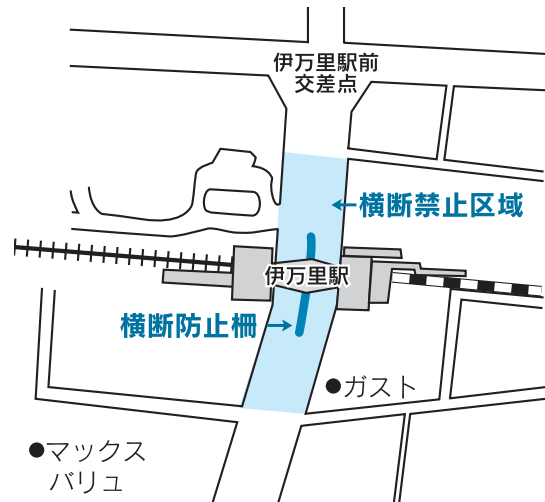
議会ホットコーナー

◎ 伊万里大通りの一部が横断禁止規制区域になります

バスセンター閉鎖によるバス停移動のため、両駅ビル間の道路を横断する歩行者が増加し大変危険な状況にあります。

そこで県公安委員会は下記の範囲を横断禁止規制区域に決定(規制開始時期は未定)。市は高さ1.2m、長さ44mにわたって横断防止柵を設置します。

横断には横断歩道や両駅ビル間のデッキ(エレベーターがあります)をご利用下さい。デッキから眺める伊万里の街並みもステキですよ。



定例会会期日程など

議案質疑

伊万里大通りの横断禁止

質問 両駅ビル間に横断防止の柵を設置する予算があるが、それだけでは不十分。路面に「横断禁止」と書くことなどは出来ないか。

答弁 建設部長
警察に話をしてみたいと思う。

小・中学校各種大会出場等支援事業

質問 各種大会への補助率が変化しているが、どのような理由か。

答弁 教育部長
従来、運動部関係は全国大会出場が2/3、九州大会出場が1/2、文化部関係は1/4の補助であったが、要綱見直しにより平均化を図り、全てを1/3補助とした。

質問 要綱での規定には議会の関与が及ばない。要綱見直しは、いつの定例教育委員会で行ったのか。

答弁 教育部長
6月25日の定例教育委員会で決定された。

伊万里市議会の改革について 事例発表しました！

～第4回全国市議会議長会研究フォーラムin金沢にて～

伊万里市議会ではこれまで数々の改革に取り組んできましたが、今年度行った「伊万里市政に係る基本的な計画の策定等の手続きに関する条例」の議員提案（伊万里市議会だより第29・30号で詳報）に関して、全国市議会議長会から課題討議の事例報告者に選ばれ、10月21日～22日に金沢市で行われた研究フォーラムで報告しました。

課題討議には「議会基本条例を考える」、「議員立法の現状と課題」の2つのテーマがあり、伊万里市議会は「議員立法と議会事務局のサポート体制」のタイトルで、政策条例の議員提案にあたり、議会事務局職員を講師とした勉強会から始めて議員の意識を深め、条例を提案し、それに基づいて第5次総合計画を特別委員会で審査、修正可決したことについて報告。コーディネーターの神原勝・北海学園大学教授から「総合計画のうち、基本構想だけではなく、基本計画への議会の関与は時代の趨勢であり、大変意義深い」とのコメントを頂きました。



報告者は次の通りです。

- ★「議会基本条例を考える」：埼玉県所沢市議会、愛知県豊田市議会
- ★「議員立法の現状と課題」：神奈川県平塚市議会、佐賀県伊万里市議会

またフォーラムでは、丹羽宇一郎・地方分権改革推進委員会委員長による基調講演「日本再生の起爆剤～地方分権改革～」や、穂坂邦夫・前志木市長らによるパネルディスカッション「地方議会はどのように変わるべきか～首長と議会の新たな関係～」がありました。

新統合病院建設事業について

特別委員会報告にもあるように、新統合病院の建設に関して、「基本設計時より総事業費が約10億円増える見込み」との報告がありました。新聞等マスコミでも報道されたため、心配する市民の皆さんも多いことでしょう。そこで、その内訳についての資料を共有したいと思います。

概算事業費の内訳

(単位:千円)

区 分	概算事業費	基本計画時	差 引	
設計管理費	基本設計、実施設計、工事監理費等	149,111	183,262	△34,151
建築工事費		4,771,000	3,819,073	951,927
	建物建築工事費	4,461,000	3,619,073	841,927
	外構工事費	310,000	200,000	110,000
上下水道工事費等		107,521	0	107,521
	上水道工事費	18,000	0	18,000
	下水道管接続工事費	37,370	0	37,370
	伊万里市導水管移設工事費	12,000	0	12,000
	給水負担金	751	0	751
	下水道受益者負担金	13,500	0	13,500
	進入路舗装工事費	25,900	0	25,900
用地・造成費		365,936	400,000	△34,064
	病院敷地用地購入費・造成工事費等	193,053	400,000	△206,947
	国道進入路及び附加車線工事費	172,883	0	172,883
医療情報システム導入費		52,500	52,500	0
医療機器購入費		837,900	837,900	0
什器・備品購入費		59,850	59,850	0
移転・移設費		94,500	94,500	0
	医療機器移設費	52,500	52,500	0
	その他移設費	42,000	42,000	0
運営計画策定費		21,494	0	21,494
合 計		6,459,812	5,447,085	1,012,727

※負担割合は市広報1月号をご参照下さい。

主な増額理由

◎建築工事費

- ・基本計画では、同規模他病院の実績単価に基づき算定
- ・部門別の設計協議により、患者本位の機能性を重視した設計を行った結果、建物床面積が増加
- ・上記理由により、建物建築工事費分が8億4,192万7千円増

◎上下水道工事費

- ・基本計画時点では、上下水道の具体的な施工方法は未検討で、事業費に組み込まれていなかった
- ・うち上下水道工事費分は5,537万円

◎用地・造成費

- ・国道工事事務所等、関係機関との協議により、MR踏切や国道附加車線の工事費が新たに必要となった
- ・関連事業費は1億7,288万3千円

総務委員会

★所管 総務部、政策経営部、市民部(戸籍・住民登録等)、会計課、消防本部、選挙管理委員会、監査委員、他の委員会に所属しない事項

当委員会に付託されました、条例議案3件、一般議案2件及び一般会計補正予算について審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

「政策経営部」

伊万里有田地区定住自立圏形成協定(9月議会で議決事項に追加)の提案:生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化を主な取り組み内容とし、22施策を予定。今後、協定の締結、共生ビジョン懇談会の設置とビジョンの策定が予定されている。

行政視察報告(10月13日~16日)

愛媛県伊予市

○自治基本条例についてほか

平野部と山間部を有した1市2町が、平成17年4月に合併している。

域内の公平な行政サービスを課題として「新総合計画」を策定するにあたり、基本理念の必要に迫られ自治基本条例を制定した。特徴的には、市政運営の原則から始め、総合計画の策定に触れるとともに、参画と協働の原則においては住民投票の実施や5年を目途に社会情勢に適応させることまで言及している。

また、学校エコ改修プロジェクトについては、国の補助事業「頑張る地方応援プログラム」の活用である。近年稀に残存している木造校舎を、地域の気候風土や特性を活かした省エネルギー化の名目のもとに、改修事業を実施したものであった。

愛媛県新居浜市

○補助金公募制度の導入ほか

度重なる台風災害による多大な財政負担増に陥ったために補助金の見直しに手をつけたものである。見直しについては、市民と行政の相互理解を深め透明性と公平性を確保するために、補助金見直し基準を設定して補助金公募制度を導入した。審査決定は市役所だより、ホームページにより情報公開としたが取

「消防本部」

青嶺中学校少年消防クラブへAED及びAED訓練用資機材救護用資機材を助成を受け配置、黒川町塩屋婦人消防隊へ初期消火活動用軽可搬ポンプ等を整備する。



軽可搬ポンプ贈呈式(昨年度)

組のなかでは総論賛成、各論で理解が得られにくい面もあった。それは補助金採択の可否が団体活動に直接関係するため、今後も十分な時間をかけながらの合意を図ることが重要との示唆を受けた。

集中改革プランについては、事務改善を推進するための年度毎の実施方法を学ばせていただいた。

香川県善通寺市

○債権管理局の設置について

臨戸徴収を廃止し、広域による租税債権管理機構に移管したが、回収能力に限界があり十分な滞納整理の能力の必要が求められた。平成17年4月に債権管理局を発足し、外部から滞納整理の専門家を採用した。この局の設置目的は、専門性、継続性、不偏性を重視して、職員では克服できない現実を補うものである。局は「部」の格を有しており結果は十分の成果を得ている。今後の課題としては、自主財源の確保は重要であるが、滞納の質の変化に対する考慮もすべきであることや徴収機会の充実も図ることが考えられている。十分に参考になることである。

◎前田 儀三郎 ○山崎 秀明
前田 教一 松永 孝三 高木 久彦
占野 秀男 盛 泰子 浜野 義則

文教厚生委員会

★所管 市民部（保健・福祉・環境・人権同和）、
教育委員会、市民病院

当委員会に付記された条例議案5件、補正予算議案1件、特別会計補正予算4件について慎重審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

大川町コミュニティーセンター設置条例については、国の緊急経済対策予算の適用で建設に至ったが、当センターの事業目的が一部の公民館事業目的と違いが生じないよう、事業の公平性を求めたところである。

ひとり親家庭等医療費助成の一部を改正する条例については、佐賀県を含み全国で4県だけが実施している助成措置であったが、県

行政視察報告（10月27日～29日）

大阪府枚方市にある東部清掃工場

平成20年12月完成。敷地面積51,350㎡。焼却能力1日240t（120t×2炉）。総事業費116億円。処理方式（全連結焼却炉ストーカー式）。

市民参加型の検討委員会を設置。これまでの実施を考慮しストーカー式に決定。一日に約150台の運搬車の出入り。

約850℃で焼却。その時に発生するガス、ダイオキシン類をボイラーや触媒脱硝装置で除去し都市ガスにて溶融処理を行いスラグ化。そのスラグが月に約300t。建設資材として1tあたり100円～200円で取引。しかし、その処分、処理についてが課題。余熱発電により全工場内の電力をカバー、余った電力は売電。24時間体制、民間企業に委託、委託料約2億200万円

滋賀県 日野清掃センター(クリーンわたむき)

平成19年3月完成、処理対象面積502.36km²、処理人口約15万人、施設面積15,004㎡、処理能力1日180t（60t×3炉）処理方式、流動床式ガス化溶融炉方式。総事業費91億7,120万円。ゴミを一旦500℃～600℃に熱し、アルミや鉄その他に仕分けが出来、その他のゴミを1200℃以上で溶かし灰とて、それを冷却水で急冷させ、ガラス状のスラグとする。スラグは建設資材(U字溝、ブロック)。余熱発電により全工場内の電力を賄う(年間約1億円)。売電も行っている(H19年度利益1,900万円)

24時間体制[民間委託、委託料約1億9,000万円]

大阪府大阪狭山市幼保一元化施設(こども園)

保育所と幼稚園の機能を兼ね備えた施設。平成18年3月に発足。現在2ヶ所大阪狭山市の教育については以前から先進的な取り組みがなされ、昭

の廃止決定により平成23年9月までは伊万里市も新条例の規定を適用するが、10月以後の廃止案については一部の委員から反対意見も述べられた。

後期高齢者医療、介護保険いずれも保険料納入にかかわる延滞金軽減を行うもの。

補正予算では、今回21世帯（51人）分の生活保護事業費が追加されている。近年の不況下における影響で対象家庭が増加傾向にある。又、小、中学校各種大会出場支援事業費の補助負担率については、文化部の負担率をアップして、スポーツ派遣との均衡を図ると同時に負担率のアップの検討を求めた。

尚、国見中学校の建設現場と、子育て支援センター（ぼっぼ）の現地視察を行った。

和29年最初の幼稚園を開園する時、「歩いて通える幼稚園」をスローガンに小学校7校に対し公立幼稚園は10園を設置。しかし近年の少子化により幼稚園の充足率も30%前後まで落ち込む。一方保育所は増加傾向。待機児童等は年々増え続けた。就学前の子供達が一貫した教育、保育を受ける事が出来る様な検討会を重ね、「子育て支援センター」を設置施設については10園あった幼稚園を6園に統合。その時の余裕保育室を転用。国の補助事業で建設した幼稚園が、目的変更のため補助金の返還が生じた。そうした中、スタートしたこども園は今年で4年目を迎える。様々な問題、課題があったが、今では保護者からの受けは非常にいいとの評価。幼保一元化の為、幼稚園教諭と保育士の両方の資格が必要。3年間の資格猶予を設け経費などの補助制度を設置。又2年間は人事異動も行わなかった。

これからの課題としては幼保一元化となったものの、事務手続などはまだ別々。給食センターも2ヶ所に分かっている。窓口も教育委員会、保健福祉部と分かっている。将来は一つの窓口。これからも、幼保一元化の取り組みについては全国的に増えるであろう。そうした中で先んじて、首長が国の政策と違う立場を取り組まれた時に各自治体の職員は、戸惑う事多々あろう。そこは、やはりその首長の強いリーダーシップと先見性に優れ、ゆるぎない信念を持ち、職員の前向きな一致した協力体制が是非とも必要な事だと改めて感じた視察であった。

◎笠原 義久 ○草野 謙
内山 泰宏 船津 賢次 前田 久年
樋渡 雅純 島田 布弘 下平 美代

産業建設委員会

★所管 産業部、農業委員会、建設部、水道部

当委員会に付託された条例議案1件、一般議案1件、予算議案4件について審査の結果、予算議案の内(森林整備担い手育成事業)1件については委員会の意見を付し、他議案については原案通り可決致しました。

伊万里都市下水道受益者負担に関する条例の一部を改正する条例制定については、有田町に建設中の新病院からの下水を引き込む事により負担金を分担金と改正するもの。

路線の認定についてバイパス整備等により新設された側道等、木須西22号線他7路線を市道に認定する。

21年度一般会計補正予算について

「建設部」関係

交通安全総務事業については、伊万里大通り線の横断防止柵を始め市内一円10箇所に防護柵を設置する。

都市計画道路整備事業については、大坪木須線の22年度完成が見込まれる事により高架橋の桁製作工事を行う。

地籍調査事業については、黒塩地すべり地
行政視察報告(10月6日~9日)

愛媛県内子町(歴史と自然を生かしたまちづくり)

内子町は人口2万人の小さな町で、町の面積の70%を山林が占めている。旧大洲街道を中心に広がる護国地区には、白漆喰で塗り込められた重厚な外壁の続く伝統的建築物群が立ち並び、今も当時の町並みの様子を知る事が出来る。

町並み保存は昭和54年、町単独の保存修理事業を開始し保存条例を制定した。更に昭和57年、国の重要伝統的建造物保存地区に選定されると、これまで行政主導で進められて来たものが住民主体に変わり、住民による保存会では町内の掃除や、観光ボランティアは勿論の事、多くのイベントが町民によって開催され年間1,200万人の観光客が訪れる様になった。

愛媛県宇和島市(宇和島地域ブランド化推進事業)

平成19年より始動し、本市の特産である真珠を生かすため、国際的に活躍する講師を招いて「宇和島デザイン塾」を開催。又地元有志によるデザイン研究会を立ち上げジュエリーデザイナー福島氏の指導を受け真珠加工デザイン分野での起業

区については、今後のバイパス整備に深く関係するので、早い調査を要望した。

市営住宅管理運営事業については、現在修繕工事を行っており外壁改修や水道メーター等の交換にかかる費用である。

「産業部」関係

有害鳥獣対策事業ではイノシシ1,200頭分の予算化をしていたが、狩猟期間中の捕獲頭数が1,360頭となったので補正が必要となった。なお、報償金取得の際の確認は厳格に行われるよう要望した。

森林整備担い手育成事業については、先般新聞で伊万里西松浦森林組合の粉飾決算が報道され、現在、県で調査に当たられているがその結果が判明するまで凍結すべきとの意見であった。

波多津漁港改修事業について、家屋損失賠償金が計上されているが護岸埋め立て工事の設計、施行に不備等の質問があったが、地盤軟弱のための事前調査も十分行い、深層混合処理工法で細心の注意を払い施行実施をしたとの説明を受けた。

企業誘致推進総務事業については、伊万里団地マンホール分解整備工事が計上されたもの。

を目指している。宣伝活動においては、全日空のメディア媒体を活用し、コンテスト、ファッションショーを開催し多くの来場となった。更に「真珠」を利用した化粧品、石鹸、清涼飲料等も商標登録したところである。

フレッシュパークからり(農産物直売所)

農産物の輸入自由化、担い手の高齢化、農産物価格の低迷など農業が閉鎖的な状況に陥る中で、観光農業の成功は農産物の販路の転換として独自の販路開拓に対する期待から始まった。松山市からの呼び込みを増すため、品質にはPOS(販売時点情報管理)を導入している。生産物には履歴書を添え、減農薬を徹底している。又当施設で家族ゆっくり時間が過ごせる様、グリーンツーリズムやパン工房、燻製工房、シャーベット工房で体験教室を開催している。

◎堀 良夫 ○松尾 博幸
松尾 雅宏 多久島 繁 渡邊 英洋
岩橋 紀行 田中 啓三 福田 喜一

交通網・港湾・企業誘致対策調査特別委員会

特別委員会中間報告

1. 西九州自動車の整備について

関係人ベースによる用地取得率は、唐津伊万里道路で南波多町重橋から谷口間は約60%、大曲から原屋敷間は約91%、府招地区は約52%となり、伊万里松浦道路で山代ICから長崎県境間は約84%と進捗しており、これらの一部地区においては工事説明会が開催された。周知の通り唐津道路（二丈鹿家IC～浜玉IC間3.8Km）の開通式が12月12日に行われ、同道路は全線開通となった。

これに先たち委員会では次なる唐津市域における唐津伊万里道路の整備状況を確認するため、北波多町にある「山彦トンネル」工事現場の現地調査を実施した。同トンネルは北波多IC側から掘削され、行合野地区までの延長957m区間が10月28日に貫通したばかりであり、その貫通先より本市方面を眺望した。

2. 港湾整備について

多目的国際コンテナターミナルの整備については、整備の前提となる構築物の補償契約が締結されたとの説明を受けた。これに関係された地権者等の方々の協力に感謝するもの

であり、これに応えるためには、マイナス13m岸壁の早期整備を希望するものである。

3. 企業誘致について

本年4月から11月までに、企業訪問・来訪による立地勧奨は22社に対し延べ37回、立地企業に対するフォローアップは41社に対し延べ159回行われている。

昨年のリーマンショックに始まり、今日のドバイショックと世界経済の動向の先行きは不透明な中、更には円高、国内の緩やかなデフレ傾向により市内企業における経営は非常に厳しいものと思われる。

このような中、船舶用製品の製造等を営まれる(株)伸建設工業が七ツ島工業団地に1.9haの土地を求められた。これで同団地の立地済面積は立地率で79.2%となった。

なお、佐賀県内における本年の企業の立地協定締結は2件のみである。

◎渡邊 英洋 ○多久島 繁
松尾 雅宏 山崎 秀明
島田 布弘 笠原 義久 前田儀三郎

地域医療・環境施設整備対策調査特別委員会

1. 新病院整備事業における進捗状況

病院用地の取得も完了し造成工事は着々と進められている。造成工事は平成22年3月完了予定で建設工事は22年6月着手、23年12月開院予定である。

病院建設に係る総事業費は、基本設計時との比較で約10億円増の約64億5,900万になることが示された。

病床数では臨時特例交付金を財源として見込むため、交付条件を受け入れて22床減の206床とする可能性があるとの説明を受けた。

2. 新病院建設にむけて

新たに示された総事業費については、膨れ上がった額が10億円と多額であり、現時点において市民に納得のいく説明がなく、市民の間では開院後の経営面を危惧する声も囁かれている。新病院については、市民の大きな期待と関心もあることから、増額の必要性、妥当性について詳細な情報を示されることを望む。

3. 県西部広域環境組合

ごみ処理施設の重要なポイントである処理システム、処理方法についての検討がなされている。検討は埋立処理・セメント原料化・スラグ化・燃料化等でなされ、この4方式の中からどの方式かの選定が2月上旬までに決定する予定である。

また地元松浦町の協議会から安心安全な施設等についての要望書も提出されている。今年度は処理方式や最終処分場についての方針が決定されることから地元の松浦町はもとより伊万里市として望ましい方向性を見定め、将来に禍根を残すことのないよう十分な議論を尽くして頂きたい。

◎下平 美代 ○盛 泰子
内山 泰宏 松尾 博幸
草野 謙 堀 良夫 浜野 義則

伊万里市企業会計決算審査特別委員会

本委員会に付託された平成20年度の水道事業、工業用水事業及び病院事業の決算認定について、11月2日、4日及び5日に委員会を開催し審査した結果、次の意見要望を付し認定すべきものと決定しました。

意見要望

1 水道事業について

市民生活の根幹をなす水道の未普及地区については、第9次拡張事業や小規模水道等施設整備補助制度利用により徐々に解消されつつあるが、未普及地区の整備計画を立てるなど、特に過疎地区の対策を講じられるよう強く要望する。

また、水道料の未収金については年々増加傾向にあり、特に短期マンション居住者の未届転出等による未納者が増えており、不動産業者や家主等との連携を強化して徹底した徴収システムを構築するよう強く要望する。

2 工業用水道事業について

既存企業の事業拡大や新規立地企業による工業用水の需要増となることから、平成18年度から第4工業用水道事業の本格的な建設が実施され、平成21年7月の給水開始に向けて取組みがなされた。

国内初の海を締切り貯水する施設建設には、巨額の費用を投じた大型プロジェクトであり、市民にとっても期待と不安両面から関心も高い。

このような状況の中で、今後の経営においては、健全な財務体質への改善を図り、事業の効率的な運営、経費の節減に努めるとともに、国内外の経済動向の変化にも早期に対応して臨むことを強く要望する。

3 病院事業について

厳しい経営状況の中で、市民病院は地域医療の中核として、医師の確保と併せて、高度な医療技術と医療設備の充実を図りながら、医業収益の向上と全職員が経営の健全化に努力されることを望む。市民に信頼され市民が安心して医療サービスの提供が受けられる病院としての役割を果たしていくことが今後も大切である。

新病院へ移行するまで、市民病院全職員が一丸となって、尚一層経営改善に努力されるよう要望する。

◎福田 喜一	○松永 孝三	多久島 繁
松尾 博幸	前田 久年	草野 譲
高木 久彦	占野 秀男	下平 美代

伊万里市一般会計及び特別会計決算審査特別委員会

本委員会に付託された平成20年度一般会計並びに国民健康保険、介護保険、立花台地開発、公共下水道、農業集落排水、市営駐車場、老人保健および後期高齢者医療の8特別会計決算認定について、11月2日・4日・5日・6日および9日に委員会を開催し、慎重審査の結果、これを認定すべきものと決定しました。概要および意見要望は次の通りである。

一般会計決算について

歳入総額205億4661万8982円に対し、歳出総額202億6970万1441円で、形式収支は2億7691万7541円で、実質収支ともに前年度に引き続き黒字決算となっている。歳入では米国サブプライムローン問題をきっかけに起きた世界金融危機により、国内外での急速な景気後退が見られ、本市においても法人市民税が前年度に比べ42.7%と大きく減収となり、自主財源も7.5%減少するなど予断を許さない状況にある。次年度以降においても統合病院、広域ごみ処理施設の建設など大型プ

ロジェクト事業が目前に迫り、財源不足に陥ることも懸念される。歳入見通しに応じた事業計画の立案を徹底するなど一層の努力を望むものである。歳出については支出抑制に努められ評価できるものであるが、可能な限りの努力を望みたい。説明資料については支出のみならず成果の記載についても更なる充実を要望する。学校備品購入に際してのより効率的な執行が出来るよう検討を望む。

特別会計決算について

8特別会計のうち、4会計が赤字決算となっている。国保会計では4億6728万3108円の赤字決算となり、今後も各種相談業務を活かし収入未済回収の取り組みを望む。公共下水道会計では9966万3958円の赤字決算となっている。収入未済額は増加傾向にあり、引き続き受益者負担の原則からも滞納額の減少に努力されるよう望むものである。

◎樋渡 雅純	○船津 賢次	渡邊 英洋
山崎 秀明	堀 良夫	笠原 義久
前田儀三郎	田中 啓三	盛 泰子

一 般 質 問 (質問順)

一 般 質 問 事 項

議員名	質 問 事 項	議員名	質 問 事 項
船津 賢次 (一問一答)	1. 水道料金について 2. 旧年金センターからの事業中止について 3. 各種制度の周知徹底について	松尾 雅宏 (一問一答)	1. 交通空白地における今後の路線バス対応について 2. 新政権における事業仕分けの結果が伊万里市農業に及ぼす影響について 3. 農地有効利用支援整備事業と伊万里市小規模土地改良事業について 4. 戸別所得補償制度に伴う22年伊万里市水田農業の方針について
樋渡 雅純 (一問一答)	1. 消防、医療の連携 (救急搬送の改善策への取り組み) (1)救急搬送の現状と課題 (2)連携への仕組みづくり、ルールづくり (3)統合病院の救急医療の核としての役割 2. 保育所保健活動の充実 (看護職配置の推進) (1)保育指針の改定 (2)保健管理体制の現状 (3)看護職兼務者の在職率のUPと段階的推進	岩橋 紀行 (一問一答)	1. 黒澤明記念館について (1)経過と判断 2. 市民センターのお祭り広場の有効利用について 3. セツ島工業団地内のレシード油施設について
前田儀三郎 (一問一答)	1. 農業振興について (1)限界集落について (2)集落支援員制度について (3)集落営農の実態と活動について 2. 伊万里牛課開設後の取り組みと今後の課題 (1)畜産等に対する専門職員の配置の考えは (2)行政と畜産農家との関わりは (3)販売価格の推移	堀 良夫 (一問一答)	1. 公共交通バス運行事業について (1)市内支援各路線の現況 (2)新たな路線バス実証運行計画 (3)いまりんバス運行の拡充 2. 建設工事及び建設関連業務委託の適正な最低制限価格の設定について (1)県内、並びに本市の設定状況 (2)本市における今後の改善検討 (3)市単独事業の積算について
多久島 繁 (一問一答)	1. 防犯灯設置について (1)電球支給は十分か (2)エコ対策としての白熱球防犯灯から蛍光灯防犯灯へ切り替える計画は無いのか (3)各行政区における切り替えのばらつき解消の手だては 2. 新型インフルエンザについて (1)集団生活における考え方 (2)敏速な動きがとれる市独自のマニュアル作り (3)専門家の意見を踏まえた市長の考え方	盛 泰子 (一問一答)	1. 来年度予算編成に向けて (1)骨格予算のあり方 (2)予算編成過程の公開 2. 教育環境の整備について (1)備品の整備 3. バスセンター閉鎖後の状況とバス事業について (1)伊万里駅バス停における乗降客利便性向上策 (2)「新たなバス」等のPR
高木 久彦 (一問一答)	1. 本市の教育について (1)戦後教育の見直し (2)教育の地方分権 2. 中心商店街の活性化について (1)市街地再開発 (2)集客対策	占野 秀男 (総括)	1. 政権交代に伴う国の予算編成の伊万里市への影響と市の考え方について 2. 新教育長の教育行政に対する抱負について
		草野 譲 (一問一答)	1. 本市における退職職員の再就職(天下り)の件について 2. 今回本市が取組む定住自立圏構想について

一般質問

水道料金について

船津 賢次

質問 水道料は平成8年24%引き上げられ、県内10市の中で二番目に高い。一方で水道会計は経常利益2億3千万円、ため込み金25億7千万円ある。市民の暮らしは大変だ、1千円でも2千円でも引き下げできないか。今後の収支見通しでは平成30年で経常利益368万円、留保資金16億9千万円となっている。平成30年までは水道料金の引き上げは必要ないのではないか。

答弁 水道部長

第9次拡張や浄水場施設の更新を控えており、引き下げは難しい。そして平成30年までの引き上げは必要ないと思う。

旧年金センターからの事業中止について

質問 年金センターは市民

の貴重な「財産」だった。事業継続を求め3万筆を超える署名も行われた。9月議会で「総合保養施設として事業を継続したい」旨の回答があったと答弁されているが、温泉は休止、わんぱくランドは閉鎖、レストランも高級化され市民にとって縁遠くなってしまう。雇用も多くの方が退職を余儀なくされている、把握しているか。

答弁 産業部長

40名程の雇用が継続されている。退職された方の人数は把握していない。

各種制度の周知徹底について

質問 介護保険料の軽減制度が導入された。しかし利用者非常に少ない。特別のお知らせをする必要がある。

答弁 市民部長

対象者を絞り込み特別のお知らせをしたい。



医療、消防機関との連携

樋渡 雅純

質問 全国的に救急出場の件数も、この10年と比較し52%増えている。市の現状は。①出場件数②搬送人数③現場到着時間④現場へ病院時間⑤救急搬送の受け入れ照会4回以上の事例。

答弁 消防長

①2081件(521件増)②2004人(31%増)③5・4分④26・5分⑤33件である。

質問 今年改正消防法が成立し、両機関の連携が義務になる。①改正のポイント②市の取り組みは。

答弁 消防長

①傷病者の搬送、受け入れ連絡調整の協議会の設置、医療の提供が行われる機関のリスト、選定の基準等②実施基準を厳守し、関

保育所保健活動

係機関との情報交換の回数を増やし、医師会、保健福祉事務所との連絡会も設置。救急隊員の更なる高度な診断、応急処置技術の習得に取り組む。

質問 昨年保健活動の重要性が示され、保育指針の改正があった。保健、衛生面の対応、看護師等の専門的職員の確保の推進がある。

①市の配置状況は。看護職兼務の配置は大きな安心と活動の充実につながる。②今後の配置は。

答弁 市民部長

①市内24園中、13園配置。②未設置の園では嘱託医と連携をとり、改正の指針にそい各園での保健計画を支援していく。研修会でも専門分野をテーマとして取り上げる。看護師不在のため課題あれば、保健士の巡回訪問など解決策を検討する。

限界集落について

前田儀三郎

質問 伊万里市内には限界集落が存在するのか。

答弁 政策経営部長

現時点では、存在しない。今後、限界集落は考えられるが、出生率の関係もあり、現時点では判断できない。

質問 集落支援制度について取組む考えはないか。

答弁 産業部長

行政区には区長さんや民生委員さん、生産組合長さんなどの組織があり、今の組織を活用したい。

質問 市長は、農政には熱心で、今まで色々な事業に取り組んで来られた。また中山間地区の集落で「市長とんでもトーク」よか村づくり座談会」を行なったが感想を

答弁 市長

色々な集落へ出向いて話を聞いたが、どの集落にも

元気な方がおられて地区のリーダー的存在であり、人材の育成が重要な課題と考える。

伊万里牛課について

質問 開設後の取組みと今後の課題について

答弁 産業部長

色々な取組みの中で、食に関するイベントと、農業振興に対する事業に分けて考えると、伊万里牛を素材にハンバーグ・焼肉などのイベントは大成りであった。また、畑の中のレストランも毎回大盛況である。農業振興については、畜産農家への経営基盤の設備、繁殖牛導入への補助等を行っている。

質問 畜産農業に必要な専門知識を有する人材を配置できないか。

答弁 市長

専門職を有する人材については、専門的知識・専門技術委員等を検討したい。

新型インフルエンザについて

多久島 繁

質問 若い世代(20歳以下)での感染が広がっているが、治療薬等の備えは万全であるのか。

答弁 市民部長

今のところ不足はない。強毒性に対する薬の備蓄は市民病院にて保管してある。

質問 現在流行しているインフルエンザや今後心配される強毒性の新型インフルエンザ発生時における市長の考えについて

答弁 市長

マスクの配布時期についても専門家に相談して行った。今後、課題があれば*危機管理委員会等に相談しながら対応していきたい。

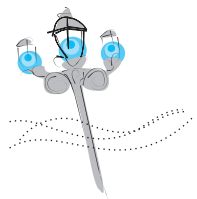
防犯灯設置について

質問 明るさ・消費電力

(白熱球生産中止のうごき)等が考慮され、電球型防犯灯から蛍光管型防犯灯への切替えが進んでいる。行政区全体で平成13年度から872万円もの額を防犯灯へ費やしているが、しかし、各行政区によつて切替えに對する財源にバラツキがある。それを解消する為、市費にて市内にある1400基全ての電球型防犯灯を蛍光管型防犯灯に切替えを望むところである。残り全てを蛍光管型防犯灯へ切り替えるとして総額2300万円の予算が必要だが、5年計画でするとして年間460万円を市で予算化できないものか。

答弁 総務部長

防犯灯は各区の財産である為出来ないし、今まで半額補助で行ってきたので、これを変えることは今まで整備してきた区に対し不公平になるので出来ない。



本市の教育について

高木 久彦

質問 教育長が代わられたので、新教育長の教育方針や考えをお尋ねしたい。

答弁 教育長

戦後の急激な時代の流れとともに、教育の方針が変化しているが、どんなに時代が変わろうとも、人思いやる心や優しさなど普遍的なもの、大事にしたいものは、大切に育んでいきたいと思う。

今後の本市の教育は、地域の特性を活かしながら、伝統や歴史を大切にして、諸先輩の教えに学び、更なる教育の推進に努めたい。

中心商店街の活性化について

質問 アーケードの撤去を機に、レトロ調の街づくりで活性化に成功されている

他都市に習い、古伊万里文化の漂う古い町並み再現に取り組んでどうか。

答弁 建設部長

伊万里川河畔には、遊歩道やガス灯の設置など修景に努めてきた。常時水を湛えた状態を保つラバーダムの建設は管理上問題点も多いが、今後も「伊万里津再現の提言」の実現へ向け取り組みたい。

答弁 市長

銀天街や本町商店街のアーケード取り払い費用に対する補助やカラー舗装工事等にも多額の投資もし、客を呼び込むために、河川敷屋台村開設や橋めぐり募集を行うなどいろいろなイベントを計画し、市としての手は十分打ってきたところである。伊万里の商店街に行ってみようというインパクトある施策はどこにあるのか、行政と商店街の皆さんと一緒に考えていくことが重要であると思う。



農業者戸別所得補償制度について

松尾 雅宏

質問 来年より「米」から取り組む事となるが伊万里市では指針はできているのか。

答弁 産業部長

主要農産物(米、麦、大豆)の生産を行った農業者に対して、生産に要する費用(全国平均)と販売価格(全国平均)との差額を交付する制度であり、23年度からの導入となっている。「米」に関しては22年度からの導入であり、現在まで補填基準価格や生産基準費用をいくらにするか等、国で制度検討がなされている段階であり本市としても情報収集に努めている。

質問 これまで産地確立交付金(転作補助金)は、大豆を柱として手厚く設定されていたが代替となる水田利活用自給向上事業では助成水準が下がるため生産調整達成に支障はないのか。

答弁 産業部長

所得補償制度は、生産調整を守らなければ交付されないもので、選択制ではあるものの加入した方が得策としてほとんどの農家が協力して頂けるものと考えている。又、その場合の転作物として飼料米が注目されているが、面積制限(転作増加分対象)等新たな情報も飛び交っており、更にはこれまでの設備投資もある

ので、これからも大豆を転作の柱として推進していく必要があると考えている。いずれにしても情報収集に努め農協等の関係機関と十分協議を行い、配分説明会でご紹介出来る様準備を進めていく。

交通空白地帯の今後は

質問 路線バス対応について

答弁 市長

今回「新たな路線バス」を走らせてもまだ網羅していない事は承知している。第三段として5km圏内を補う方法を検討しなければと考えている。

黒澤明記念館について

岩橋 紀行

質問 平成10年以來、11年間に亘り計画の説明を受けてきたが、記念館の建設が具体的に見えてこないが、今、市としての判断をすべき時期ではないか。

答弁 政策経営部長

今月10日よりパリで開催の黒澤明監督生誕百年記念事業で協賛者と資金の固めをし、そこで道筋を付けて記念館の計画に入るとの説明を受けている。現況から前進がないと考えている。

答弁 市長

計画が出なくて苦慮している。平成22年3月がタイムリミットと考えている。

市民センターのお祭り広場の有効利用について

質問 お祭り広場(1500㎡)を駐車場の機能を残して、グラウンドゴルフやト

ンテントン合戦場に可能な施設にできないか

答弁 市民センター長

お祭り広場は年間140日利用され、災害時の避難場所、椅子等の進入口などがあり、インターロックブロックを外す事は困難である。

答弁 市長

伊万里町には全天候型の施設がないので、近くに適当な場所を検討したい。

七ツ島工業団地のレシード油施設について

質問 施設の原因者(神廣)と使用許可者を出した県との早期解決に向けた取り組みを過去5年間に亘り促してきた。施設の撤去見込みと利用策は。

答弁 産業部長

裁判所への強制執行の手続き等を経て今年度末までには撤去の見通しであり、経過説明を早い時期に市議会に対して行うとの事(県港湾課の話)。公共埠頭用地の有効活用に努めたい。

公共交通バス運行事業

堀 良夫

質問 バス事業者の厳しい状況から運行空白地域が増加し、更に超高齢化社会が迫っている。市の支援路線における赤字補填、利用者の動向はどうか。

答弁 産業部長

補助金は平成20年度5461万円、15年度より2022万円減少し、利用者は7万5700人の減である。理由としては、バス事業者の人件費削減、路線の大幅な減便、利用者の減少が挙げられる。

質問 地域住民の移動手段確保のため、地域バス運行の施策は。

答弁 市長

新たな路線バス実証運行は、田舎版いまりんバスとして、交通空白地域を解消し、お年寄りや車の運転が出来ない方々の通院や買い物等、バスが本来に必要な

一般質問

地域なのかを検証する。更に地域公共交通の形態、運行の制度、支援等を研究し、使い勝手の良い「市民の足」を目指したい。

建設工事等における最低制限価格の設定

質問 長引く不況、公共投資の厳しい抑制を受けて、発注状況の推移は。

答弁 総務部副部長

普通建設事業費は平成11年度57億5千万円、20年度13億5千万円で、1/4弱である。

質問 国は建設業が地域の雇用を確保し、地域産業の中核として持続的に発展できる観点を加えて対処するよう県に要請。これを踏まえ県及び佐賀市、唐津市等はすでに改正している。本市の適正な見直しについて市長の所見は。

答弁 市長

関連業界も含めた従業員も多いため、入札制度検討委員会に市長としての意見を伝え、再調査・検討を指示したい。

伊万里駅バス停の利便性向上策

盛 泰子

質問 バスセンターの閉鎖により、駅ビルのデッキ下にバス停が移動し、椅子が少なく時刻表も見にくい状況にある。デッキの支柱下部円周を利用しベンチを作ること、東ビル内壁面を利用して時刻表を大きく表示することができないか。

答弁 産業部長・市長

最近、伊万里有田法人会からベンチ2台の寄贈を受けた。椅子や時刻表の設置要望はあるが、まずはバス事業者に要請し状況を見ながら考えてみる必要がある。

教育環境の整備

質問

①小中学校からの備品購入要望②バザー益金や卒業記念品での寄付③ピアノの調律状況と購入年度④

決算委員会で指摘した備品購入費執行工夫⑤備品や修繕等への対応は。⑥要望を学校名は伏せて公開すべき

答弁 教育部長・教育長⑥

①ストープ、CDラジカセ、長机、パイプ椅子、デジタルカメラ等②屋外テント、和太鼓、運動会用はつび、見守り隊用ブルゾン、扇風機等③調律は学校からの希望台数分全てを行って。購入年度は平成に入り、8台、昭和60年代3台、40・50年代各9台、30年代30台。④入札時期を早める、学校間の連携、無駄のない執行の3点を考えている⑤予算確保に努める⑥市全体の統一見解が必要。

予算編成過程の公開

質問 国の事業仕分けは「過程が公開された点」が

評価されている。枠配分から外れた予算も公開できないか

答弁 市長

枠内だけでなく、枠に入らず算化されなかった分の公開は前向きに考えたい。

新政権の予算編成と伊万里市への影響

占野 秀男

質問 民主党を中心とする新政権は、これまでの自公政権とは違って、公開の「事業仕分け」と称する作業が行われ、内容は別として国民の間では好評の様だが、この「事業仕分け」による伊万里市への影響はどうか。多くの事業があるが特に西九州自動車道、国道202号、広域ごみ処理場、新統合病院、井手口川ダム等についての影響を伺いたい。

また、今後の政府への要望はどうするのか、伊万里市も無駄をなくすために事業仕分け的な見直しを考えるべきではないか。

答弁 政策経営部長

国は予算編成中であり決定はしていないが影響について情報収集をしている。今の段階では、道路関係が「縮減」や「凍結」が予想

される。他の事業については影響ないものと思っ

ている。見直しは「財政再建計画」で実施中。

答弁 市長

従来とは違うが新政権のやり方で要望していく。またこれまでお願いしてきた3区や参議院の先生にも要請はしたい。

新教育長の抱負

質問 学校教育、社会体育、文化、社会教育、図書館などそれぞれに対する抱負を聞かせていただきたい。

答弁 教育長

これまで多くの先輩が取り組んでこられた「愛と信頼の教育」、「人権文化の創造」の充実発展を目指したい。

また、抱負としては愛と信頼の教育、人権、文化の創造をこれまで以上に進め、また引き継いだ事項についてもしっかりと取り組むたい。

本市における退職
職員の再就職（天
下り）の件について

草野 讓

質問 ①これまで本市として天下りやそれに似た様な事が行われていたのかどうか②本市ではまだ天下り規制が制定されていないならば策定される計画や予定はあるか③本市職員の退職再就職先の件で本市の公共施設や外郭団体への就職の門を民間も含め公募にしてはどうか④市民から天下りではないかと疑いの目で見られない様に透明性を図る事で公務員の再就職先をオープンに公開してはどうか。

答弁 **市長・総務部副部長** ①天下りと云うものはない。只、嘱託職員や外郭団体への採用はある。適材適所の採用と思う②国も検討されている事であり本市でも検討して行く③公共施設や外郭団体など市の権限が

及ぶ所について考えていきたい。広く民間に門を開き公募する事にはやぶさかではない。④市として疑惑の目で見られるのは心外であり、公表出来る分については十分検討して行く。

定住自立圏構想について

質問 今回本市が取組む自立圏構想であるが、合併後の地方圏において安心して暮らせる地域を各地に作り大都会へ流れている人口をくいとめ、本市が中心市宣言を行ない有田町と連帯して魅力ある都市機能を整備していくとあるが、今後の方針とスケジュールについて。

答弁 **政策経営部長** 今議会に上程している様に有田町と形成協定を結び医療の整備や産業の振興、人的な交流など地域共通の課題に取組む。この取組みによって交付税措置があり共生ビジョンを策定し将来都市構想に役立たせたい。

議会運営委員会 視察報告

議会運営委員会はさる11月16日、17日の2日間、兵庫県「姫路市」「たつの市」の議会運営について視察研修を行いました。

伊万里市議会では次回の選挙後から、議会運営は「会派制」に移行することになり、集中的に会派制議会運営の研修を行いました。

「姫路市議会」

議員定数49名。3人以上を会派とし、最大17名、最少4名の6会派と一人会派2の構成になっています。議運は条例で定数を決め、比例方式で選出。現在11名で構成。

一人会派も「議運」には参加できるものの発言権、採決権はありません。任期は1年交代。正副議長も別枠で参加している。

「たつの市議会」

議員定数28名。最大8人、最少2名の7会派で構成。原則3名以上だが政党の場合は2名以上で認める。議運定数は8名以内（現在は7名）、会派の所属人数に比例して選出。

任期は1年とし毎年5月に選出している。

正副議長はオブザーバーで参加。

このほか会派運営の中での一般質問や議会での協議のあり方、代表質問、発言時間、全員協議会の有無など多方面にわたって研修を行った。議員定数は違いがあるものの運営については参考になった。



◎占野 秀男 ○前田 久年 松永 孝三
船津 賢次 樋渡 雅純 高木 久彦
岩橋 紀行 田中 啓三 福田 喜一

行政視察受け入れの状況（平成21年4月～平成21年12月）

月	来訪議会名	人数	視 察 項 目	
4	東京都調布市議会	3	家読推進事業	会
5	栃木県大田原市議会	8	行政経営、職員の意識改革等	委
	長野県千曲市議会	9	学校給食センター 提案型公共サービス民営化制度	委
	鹿児島県志布志市議会	13	議会運営、議会改革	委
	大分県中津市議会	5	伊万里港の整備、ポートセールス	会
	沖縄県宮古島市議会	9	市民図書館 NPO法人伊万里はちがめプラン	委
7	宮崎県日向市議会	2	工業用水道	個
	兵庫県小野市議会	7	行政評価システム	委
	滋賀県近江八幡市議会	8	伊万里っ子しぐさ	委
8	熊本県和水町議会	9	子育て支援、健康づくり事業等	委
	(同 上)	8	議会だより	委
10	東京都荒川区議会	14	市民図書館	会
	千葉県富里市議会	7	行政評価システム、職員の流動的運用	委
11	熊本県上天草市議会	8	遊休施設活用による企業誘致	委
	栃木県芳賀郡内 市・町議会（正副議長）	11	やすらぎ斎苑	—

※ 人数は議員の他、随行者も含みます

※ 「委」は委員会、「会」は会派での視察を意味します

※ 6・9・12月は議会中のため、視察申し込みはありませんでした

※ 多くの場合、伊万里市内に宿泊されています。伊万里市議会も出来るだけ視察先の自治体に宿泊するように努めています

編集後記



2010年、寅年の輝かしい新春を迎え、市民の皆様が素晴らしい年である事を願っております。

それにしても最近の世の中、実に様々な出来事が起るものであります。地球が自ら廻っている様に次から次へと新たな場面が現れては様々な局面に展開しております。

移り行く世情の早さに戸惑いながらの昨年一年間でありました。

政権交代あり、いつまで続くか不況と新型インフルエンザ。先行き不透明な社会情勢の中、我が伊万里市も例外ではありません。しかし昨年は若人の頑張りに目を覚ますものがありました。伊万里農林高校の甲子園出場の快挙には熱い思いが込み上げる位の拍手を送り、力武杏奈さん（有工2年）は最年少ながら一回の挑戦で見事、民謡日本一の栄冠に輝き、南波多小6年の池田衣那さんは全国大会100m競争でこれまた日本一の座を仕留めました。若者の

の活躍に明るい未来を感じ、感動と勇気と元気を頂きました。

混沌する社会の中で、政治の役割が一段と重要性を増す中で議会と議員はその使命と責任をしっかりと果たして行かなければなりません。議会だよりもその一環であり現状の市議会の在り様をお知らせする機関紙であり、市民とのパイプ役になればとの思いであります。

お聞きになりたい事やご意見などありましたら、どうぞお気軽にお寄せ下さい。（譲）

編集委員

◎山崎 秀明○多久島 繁
前田 久年 草野 謙
松尾 博幸 盛 泰子
顧問 内山 泰宏 占野 秀男
樋渡 雅純

発行

伊万里市議会
伊万里市立花町一三五五―1
☎0955-23-2111
☎0955-22-1277
E-mail:ykat@city.imari.jp

編集

市議会だより編集委員会
印刷 山口印刷株式会社